フラワーガーデン

カトレヤを楽しむ

園芸総合センター
今出来 光志

洋ランの女王と言われるカトレヤは、一般に、カトレヤ属をはじめ、近縁種のレリア属、ソフロニチス属と、これらとの交配属を含め、カトレヤ類と総称されているものです。

カトレヤは、他の洋ランと共に冬季によく見かけますが、冬咲き種のほかに、春咲き、夏咲き、秋咲き種があり、一年中楽しめます。

カトレア類の原産地は、メキシコ・グァテマラを中心とする中央アメリカ、南アメリカの北部とブラジルの海岸の山地等のいわゆる熱帯アメリカです。

また、人工属では、花形や花色などの面で優れた個体が数多く作出されています。

一　カトレヤ属

ラビアタ系は、細長い中太のバルブに、長くて幅広い葉を一枚付け、大輪でリップの目立つ花を二～五輪ほど短い花茎に付けます。

ロディゲシー系は、二〇cmあまりの細長いバルブの先に二枚の葉を付け、その葉間から抽たいする花茎の先に一～五輪程度の小さな弁の厚い花を付けます。

ボーリンギアナ系は、やや太めの長いバルブに大きな二枚の葉、その中から二〇輪近い花を付けた大きな花序がみごとです。

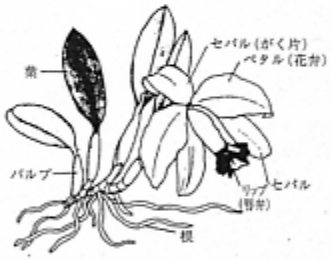

図1　カトレヤの形態図

二　レリア属

レリアルピコラの名で総称されるブラジル内陸部の高原地帯の千枚岩などに着生する通称〝ロックレリア〟は、高さ十～十五cmのバルブに、同長ぐらいの葉を一枚付けます。花径は三～四cm位のものが多く、花色はピンクから紅、橙、黄、濃黄色にわたり、低温（五℃）に強く乾燥に耐えます。

これに対して、ブラジルの高原の樹枝に着生するレリア種の花径は、ロックレリアよりはるかに大きいものが多くあります。花色は白、白とピンクの複色、ローズピンクなどで、必要な最低夜温は、十～十五℃で湿度を好みます。

三　ソフロニチス属

ブラジルの高地の樹幹や枝などに着生する小型のランで、大きいものでも葉先まで十二cm程度で、小さいものは、五cmほどです。花色は、朱紅からローズピンクにわたり、必要な最低夜温は五℃です。

代表種には、コクシネアがあります。

四　異属間交配の人工属

(一)ソフロレリア

ソフロニチスとレリアの交配種で、花径は四～十cm、必要な最低夜温は五～七℃です。

(二)ソフロカトレヤ

ソフロニチスとカトレヤの交配種で花径は、五～十cm程度で、最低夜温は十℃以上必要です。

(三)レリオカトレヤ

レリアとカトレヤの交配種で、花径は五～十cm程度で必要な最低

夜温は十三℃以上です。

(四)ソフロレリオカトレヤ

カトレヤ、レリア、ソフロニチスの三元交配で作出されたもので、花径は、五～十二㎝程度で、最低夜温は十五℃以上必要です。

五　栽培管理

(一)十月下旬～四月の管理

種類によって夜温の最低限界が異なりますが、一般に夜温が十三～十五℃以下になれば、温室や室内に取り入れます。冬の間は、日光がよく当たる所に置き、夜は必要な最低夜温を確保しますが、晴天の昼間などに温室内の温度が高くなり過ぎないように注意し、換気します。

三月下旬頃には、三〇％程度の日よけを行います。

①水やり：温度が低い時は、水やりを控え、乾かし気味に管理します。植え込み材料の表面が乾いてからさらに三～四日待って、暖かい日の午前中に、夕方湿り気がわずかに残る程度に水やりします。

保温が充分なら、植え込み材料の表面が乾けば、水やりします。

(二)五月～七月上旬の管理

五月に入り、最低夜温が十℃以上になれば、三〇～四〇％遮光した、戸外の風通しの良い、雨水の跳ね返りのない高めの棚の上などで管理します。

①水やり：植え込み材料の表面が乾いたら、鉢底から流れ出るまで、たっぷり与えます。梅雨期は、長雨を避けて軒下などに置きます。

②施　肥：油カスと骨粉を等量混合して水で練り、親指頭大に固めた置き肥えを四～五号鉢で一～二個、五月と六月に一回ずつ、新芽や新根が伸びている反対側に与えます。

また、十～十五日に一回、液肥（成分配合例、窒素六・五、リン酸六、カリ九）の一，〇〇〇倍液を潅水がわりに与えます。ただし、開花を迎えた夏咲き株には施肥を行いません。

(三)七月中旬～九月上旬の管理

日ざしが一段と強くなりますので五〇％程度の遮光をします。

日照が適切かどうかは、葉の色を見て判断します。緑色が濃いものは、日光不足で花付きが悪くなります。緑色がやや薄く、わずかに黄ばんだ状態が最も良く花を付けます。葉焼けさせないように遮光の程度を加減します。

①水やり：毎朝、鉢底から流れ出るまでたっぷり与えます。乾き過ぎた鉢は、水やりしてから三〇分後ぐらいに再び潅水します。

夜間の温度が高い日は、少しでも涼しくするために、夕方や夜間に棚の周りに打ち水をしたり、軽く霧を吹きます。

②施　肥：夏咲き種以外の株に、二，〇〇〇倍程度の薄目の液肥を十～十五日に一回与えます。

(四)九月中旬～十月中旬の管理

遮光を三〇％程度にします。このころ降り続く雨は、根痛みの原因になりますので、雨よけします。

①水やり：新芽の生育の終わった株では、控えめにしますが、まだ生育している株や、開花を迎えた秋咲き株には、植え込み材料の表面が乾けばたっぷり与えます。

②施　肥：新芽が伸びている株には液肥を月二回与えますが、生育が止まったものには施しません。

(五)植え替え、株分け

新芽が伸びる余裕のないもの等は植え替えます。春咲き種は、五月、夏咲きは九月、秋咲きは三～四月、冬咲きは、四月を目安に新しい根が伸び始める時に植え替え、株分けを行います。鉢から抜いた株は植え込み材料や腐った根を取り除き、株分けは、新芽にバックバルブを二～三本付けたものを一株として分け、株の大きさに見合った素焼き鉢に新しい植え込み材料で植えます（図二）。水苔植えはやや堅めに巻いて植えます。

図2　カトレヤの植え方の例

(六)病害虫防除

ナメクジ、カイガラムシ等に注意します。